

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	38 / 2017 / 35 (再編集版)
タイトル	青森市のハグロトンボ～2015・2016年の記録
著 者 名	室 谷 洋 司

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森市のハグロトンボ～2015・2016年の記録

第10代 室谷洋司

本誌30号(2011)から、青森市周辺のハグロトンボについて生息情報を載せてきた(下欄の注を参照)。生物多様性の喪失が叫ばれてきて久しいが、なかでも生活環のなかで水生に依存する種に顕著で、その代表格としてトンボ類があげられる。

かつて、第二次大戦終結の直後までは、ハグロトンボは水辺があればどこにでも見られる、ごく普通のトンボだった。ところがいつの間にか我々の身の回りから姿を消してしまった。それが2010年前後から稀に見られるようになったのである。これはハグロトンボだけのことではなく、ほかの生物種にも見られる現象かも知れないが、これを指標種として年次的に記録していきたいと考えたからである。

「真っ黒で妙なトンボが飛んでいたよ!」という情報があれば、ほぼ本種に間違いがなく、多くのかたがたの情報提供が見込まれることから作業がしやすい。

ここに、その2015・2016年版を記録しておく。いざ、まとめて見ようとしたら意外に情報が少なかった。会員のかたで、「私も見ているよ!」という記録があったら是非とも、お知らせ願いたい。結局は、友人の高橋克成氏のホームページ「トンボの素顔」からの引用が多くなってしまった。()内に人名がない記録はすべて高橋氏の記録である。また、佐藤博氏からも情報をいただいた。両氏にお礼を申し上げる。

2015年の記録

7月6日:野内の水路、7月11日:夏井田の溜池、7月13日:牛館川の湿地、7月29日:宮田の新総合運動公園内の池と宮田の溜池、8月3日:野木和公園付近の水路、8月7日:野内の小川。

2016年の記録

7月7日:野内の小川、7月16日:牛館川付近の林内(約5個体、室谷洋司)、7月31日:宮田の溜池と野内の小川、8月6日:宮田の溜池、8月5日:桜川5丁目の路上(室谷節子・陽子)、8月15日:桜川4丁目の路上(佐藤博)。

筆者は、青森空港の東側下の高田にある定点観察所で本種の動向についても注意しているが、兩年とも確認できなかった。上記のように住宅地で2例の観察があるが、近隣の水路にも個体数が少ないものの発生していることがうかがわれる。しかし、年次的にみても依然として本種の発生は限定的で、生息地の拡大と個体数の増加が見られないようである。

注:30号(2011)ハグロトンボが帰ってきた! 復活の兆しか? 32号(2013)青森市のハグロトンボ～2012年の記録 34号(2014)青森市のハグロトンボ～2013年の記録 36号(2015)青森市のハグロトンボ～2014年の記録